

特別企画展

折口信夫 の 能登・越中

自分だけの
窓を持つ

関連講演

「2025高岡万葉セミナー」

9月6日(土) 13時～16時25分

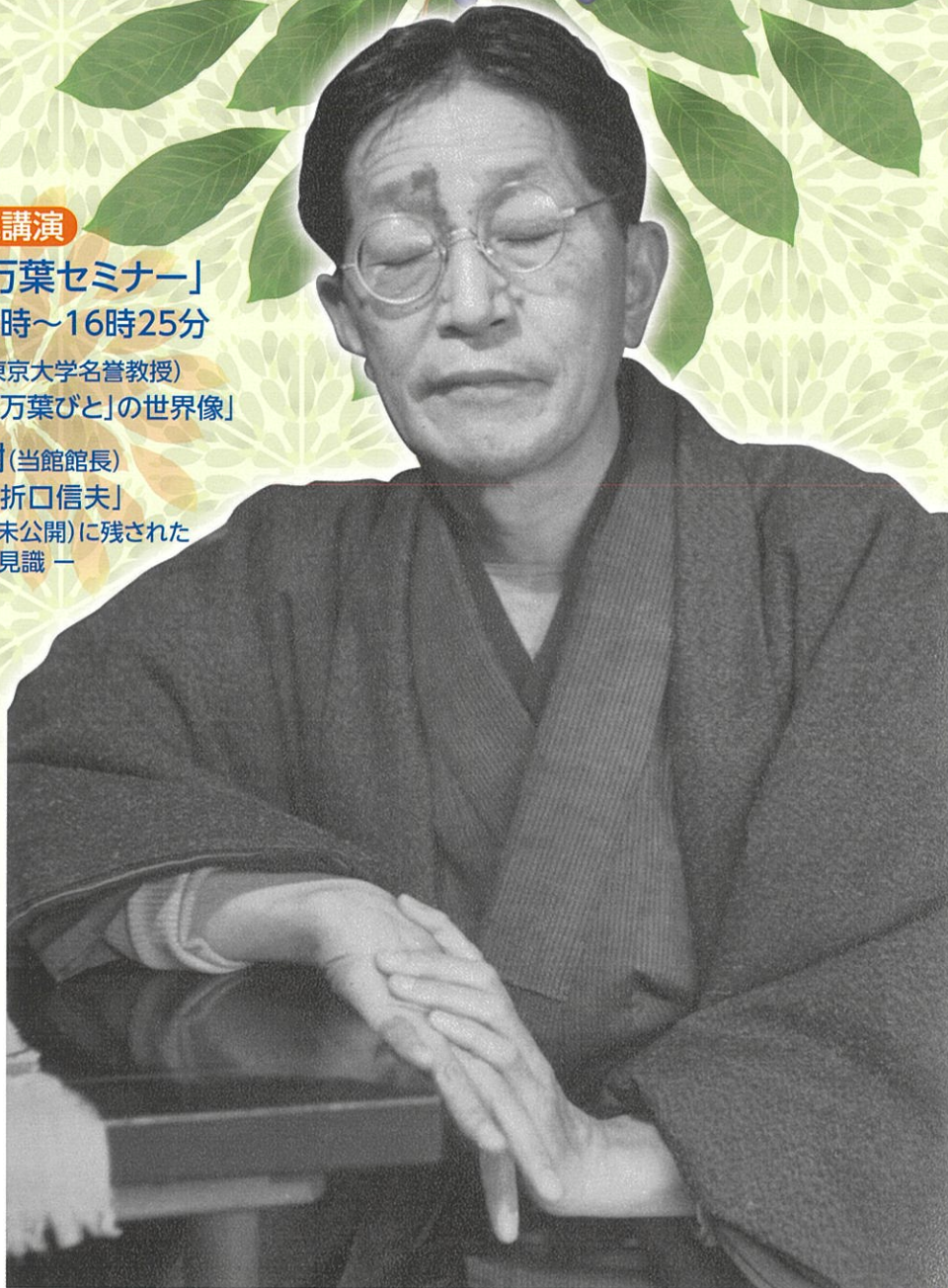
多田一臣氏(東京大学名誉教授)

「折口名彙から見る「万葉びと」の世界像」

藤原茂樹(当館館長)

「万葉集と折口信夫」

— 巻十七講義録(未公開)に残された
折口の見識 —



2025年

7月16日(水)～9月15日(月・祝) 火曜日休館



高岡市万葉歴史館



高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1-11-11
電話: 0766-44-5511 FAX: 0766-44-7335

●開館時間 午前9時～午後6時 ※入館は閉館の45分前まで

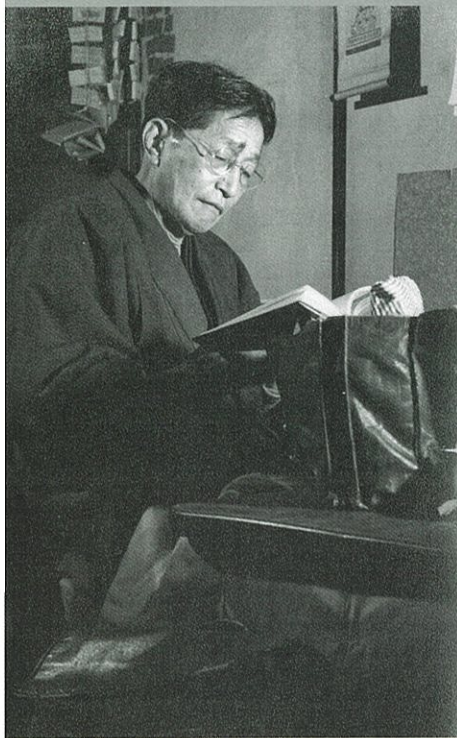
●観覧料 一般…300円、中学生以下…無料、65歳以上…240円、団体(20名以上)…240円

※協力 池田光瑠氏

折口信夫(おりくちしのぶ)(1887～1953)

国文学者、歌人、詩人。別名釈迢空(しゃくちょうくう)。

民俗学者である柳田国男に師事。代表著書『古代研究』、『海やまのあひだ』(歌集)、『死者の書』(中編小説)、『古代感愛集』(長歌集)のほか、国文学、民俗学、国語学において多くの研究論文を残す。



1951年春(64歳)大井出石の家の居間で

たぶの木の下に
入りかねて、
木の間あかるき
かそけさを見つ

釈迢空『春のことぶれ』

特別企画展



折口信夫 の 能登・越中

2025年
7月16日(水)～9月15日(月・祝)

「強く個性を出し、自分だけの窓を持つてゐて、おつと物を見つめてゐる。さう言ふ先人の瞳が目に見えるやうである。」

(注1)

今から約一三〇年前に越中守として赴任した万葉歌人、大伴家持に対する折口信夫の評です。

右の評は折口信夫の学問にも当てはまります。その学問は、弟子の池田弥三郎に「もつとも深奥な学の体系は、常に秀れた個性によつてのみ樹立される」(注2)と評される独創的なものでした。「古代」を現代生活の中で実感されるべきものとして考えた折口信夫は、読書により得た知識と全国の旅を通して得た体験とを融合させ、独自の理論を次々と打ち出しました。その理論に能登の旅で見た情景から得た実感が与えた影響は決して少なくありませんでした。

また折口信夫は、歌人・釈迢空として多くの短歌や小説を残しています。学問と創作とを行き来しつつ、現代生活から古代を実感しようとした折口信夫もまた「自分だけの窓」を持った人でありました。

折口信夫のまなざしに触れ、その生活や学問や創作の跡をたどりながら、越中の「古代」を探す旅に一緒に出かけましょう。

関連イベント

2025高岡万葉セミナー

9月6日(土)

13時～16時25分

多田一臣氏(東京大学名誉教授)

「折口名集から見る『万葉びと』の世界像」

藤原茂樹(万葉歴史館館長)

「万葉集と折口信夫」

ー 巻十七講義録(未公開)に残された
折口の見識 ー

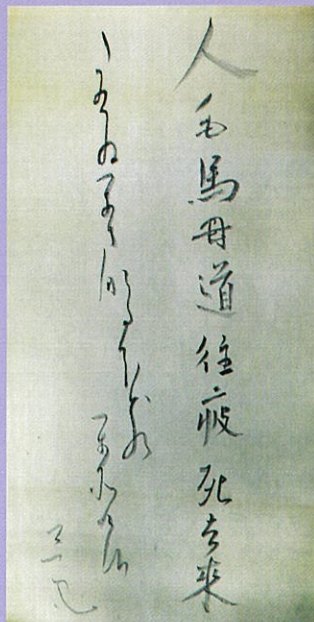
ギャラリートーク

7月20日(日)13時～

7月27日(日)16時10分～

8月2日(土)16時10分～

申し込み不要。要観覧料。



①



②



③

写真説明

- ①遺墨 歌「人毛馬母道往疲死たびね重なるほどのかそけさ」
- ②1936年の河童祭行灯の折口信夫による河童戯画
- ③『古代研究』初版本

(注1)

折口信夫「評価の反省」『婦人之友』45巻5号、1951年5月。

(注2)

池田弥三郎『私説 折口信夫』1972年8月、中央公論社。



- ◆JR氷見線……伏木駅から徒歩約25分
- ◆バス……高岡駅前(北口)バスのりば④から「伏木一の宮」バス停
- ◆能越自動車道 高岡北インターから約20分。無料駐車場普通車54台、バス6台。



高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮 1-11-11

TEL 0766-44-5511 FAX 0766-44-7335

E-Mail: manreki@takaoka-bunka.com http://www.manreki.com

開館時間

午後9時～午後6時

※入館は閉館の45分前

観覧料

一般…300円、

中学生以下…無料、

65歳以上…240円、

団体(20名以上)…240円

歴史館の最新情報、日々の出来事は X で

家持くん @manreki いけぬし君 @ikenushi おおいらつめちゃん @oiratsume